

<p>(1) 調査の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。</li> <li>○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。</li> <li>○以上のような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。</li> </ul>	<p>(2) 対象学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校第6学年、義務教育学校第6学年</li> <li>○中学校第3学年、義務教育学校第9学年</li> </ul>	<p>(3) 調査内容</p> <p>I. 教科に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校調査は、国語、算数とし、中学校調査は、国語、数学とする。出題範囲は調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は以下のとおりとする。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等</li> <li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等</li> </ul> </li> </ul> <p>II. 質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）</p>
--	--	---

## 教科に関する調査結果と成果

### 平均正答率（％）

#### 小学校

	貝塚市	大阪府	全国
国語	63	66	67.7
算数	60	63	63.4

#### 中学校

	貝塚市	大阪府	全国
国語	52	57	58.1
数学	44	51	52.5

## 各教科の状況

### ○小学校国語

知識及び技能に関する問題では、漢字や言葉、文法等の使い方に課題があります。

思考力・判断力・表現力等に関する問題では、特に、「読むこと」に課題があり、文章の要旨をつかみ、内容を理解することに課題があります。

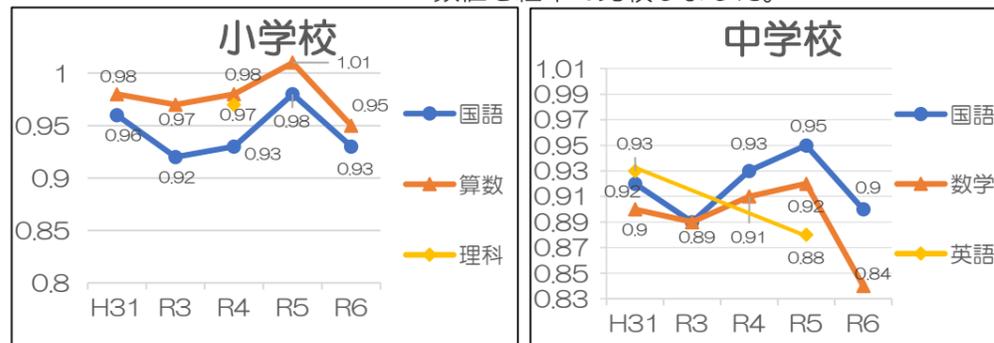
**【指導のポイント】**  
 言葉や漢字、文法のきまりなどは暗記するだけではなく、成り立ちや使い方を理解し、実際に生活で使うことが大切です。また、文章の内容をつかむためにも、読んで分かったことについて話したり、調べたことを報告したりする等、意識して取り組むことも大切です。

	学習指導要領の内容	平均正答率（％）			
		貝塚市	大阪府	全国	
小学校国語	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	60.5	63.4	64.4
		情報の扱い方に関する事項	81.9	85.5	86.9
		我が国の言語文化に関する事項	67.1	72.6	74.6
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	56.2	57.3	59.8	
	書くこと	62.9	65.9	68.4	
	読むこと	64.0	69.0	70.7	

※表中の「貝塚市」、「大阪府」、「全国」については、「貝塚市内公立学校」、「大阪府内公立学校」、「全国の公立学校」の平均正答率（％）を表しています。

### 対全国比の経年比較

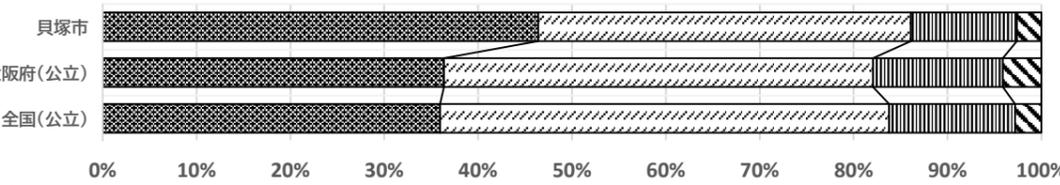
貝塚市の平均正答率を全国の平均正答率でわり、全国の正答率を1（基準）としたときの貝塚市の数値を経年で比較しました。



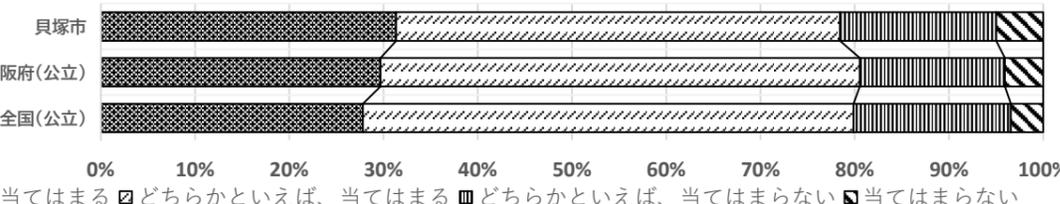
### 成果

昨年度、授業改善の指標としていた「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり生かしたりすることができると思いますか」の結果をみると小学校・中学校ともに「当てはまる」の割合が、府や国の肯定的意見よりも高い数値が出ており、成果が見られます。

#### ○小学校



#### ○中学校



### ○小学校算数

小数でわる計算の問題や、わからない数を□を使って表す式と計算の問題では、国の結果よりも正答率が高い結果となりました。一方、領域に関わらず、問題の解き方を言葉や数、式を用いて記述することに課題があります。

**【指導のポイント】**  
 学習した内容や自分で考えたことを声に出して説明したり、図やグラフ等から読み取ったことを算数や数学で学習した用語等を使ってまとめたりする活動を積極的に取り入れることが大切です。

	学習指導要領の内容及び評価の観点	平均正答率（％）			
		貝塚市	大阪府	全国	
小学校算数	領域	数と計算	64.7	65.3	66.0
		図形	63.1	65.2	66.3
		変化と関係	48.4	50.9	51.7
		データの活用	57.3	60.9	61.8
評価の観点	知識・技能	70.2	71.9	72.8	
	思考・判断・表現	48.0	50.5	51.4	

### ○中学校国語

知識及び技能に関する問題において、特に言葉の特徴や使い方に関する事項に関して課題があります。また、文章の表現の工夫や自分の意見を書く問題にも課題があります。特に、目的に応じて要約する問題の正答率は約35%と低い結果となりました。

**【指導のポイント】**  
 言葉の特徴や使い方について意味を考える活動や、教科書を使って要約の仕方について学び、短い文章等で練習したり、筆者が図表などを入れた意図などを考える等の学習に取り入れることが大切です。

	学習指導要領の内容	平均正答率（％）			
		貝塚市	大阪府	全国	
中学校国語	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	52.6	59.1	59.2
		情報の扱い方に関する事項	55.3	59.4	59.6
		我が国の言語文化に関する事項	72.2	75.8	75.6
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	50.2	56.4	58.8	
	書くこと	57.9	63.3	65.3	
	読むこと	42.1	47.2	47.9	

### ○中学校数学

「関数」の領域では、グラフに書かれている内容については概ね解釈できています。しかし、そのグラフを用いて課題を解決する方法を説明する問題では、正答率が約5%で、大きな課題があります。また、領域に関わらず、理由や問題解決の方法を記述することや証明にも課題があります。

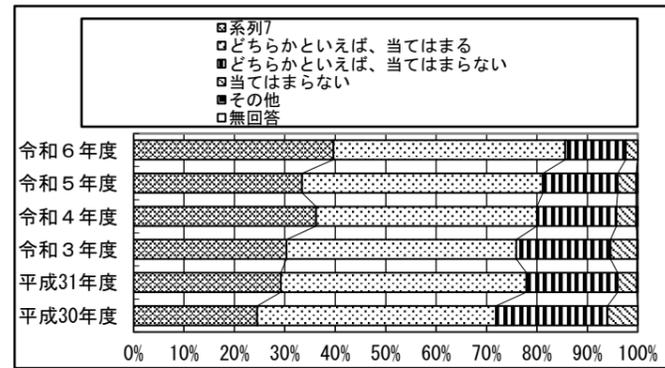
**【指導のポイント】**  
 データを分析するときは、数値やグラフの傾きから、特徴を把握し、そこからわかったことを、数学的な表現を使って、文章でまとめる等の活動を積極的に取り入れることが大切です。

	学習指導要領の内容及び評価の観点	平均正答率（％）			
		貝塚市	大阪府	全国	
中学校数学	領域	数と計算	41.4	50.4	51.1
		図形	31.9	40.5	40.3
		関数	53.1	58.9	60.7
		データの活用	46.3	53.3	55.5
評価の観点	知識・技能	54.7	61.9	63.1	
	思考・判断・表現	19.7	28.2	29.3	

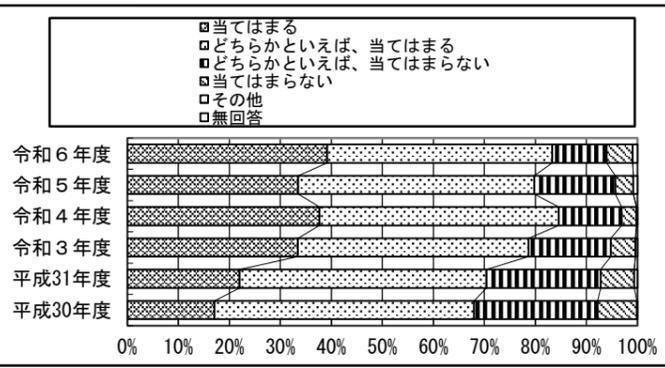
## 児童生徒質問紙調査結果

5年生（1、2年生の時）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

### 小学校



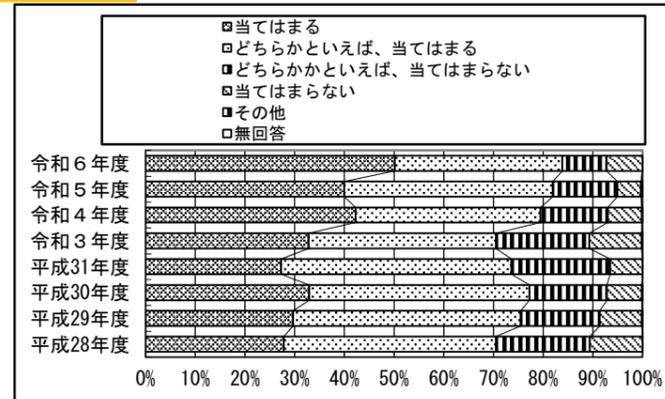
### 中学校



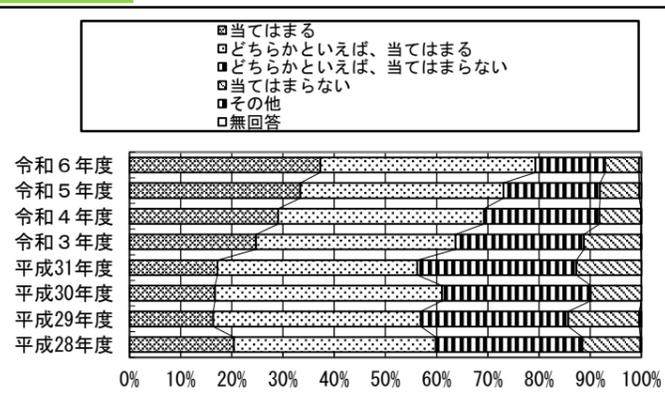
小中ともに、肯定的回答の割合が約80%を超えています。今後も児童生徒が自分で考え、課題を見つけ、解決していけるように主体的に学ぶ授業づくりをすすめていきます。

自分には良いところがあると思いますか。

### 小学校



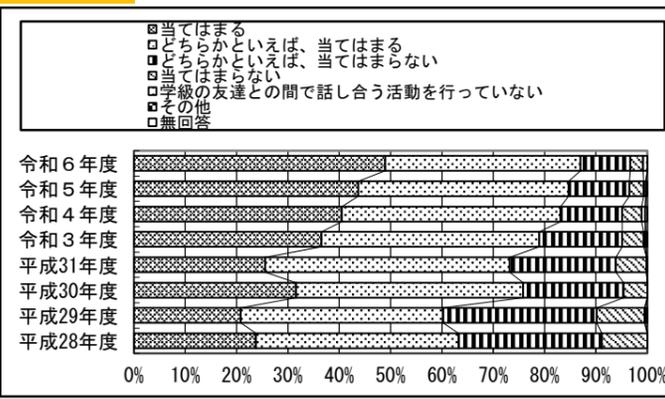
### 中学校



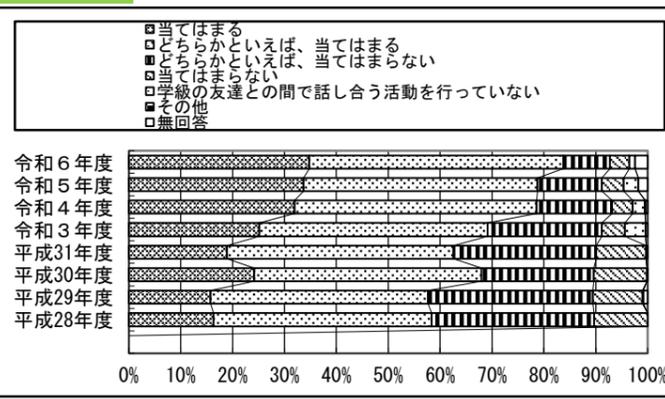
年々、肯定的回答の割合が増加しています。貝塚市が大切にしている人権教育の成果であると考えます。今後も、児童生徒のありのままを受け止め、自己肯定感を高める人権教育に取り組んでいきます。

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

### 小学校



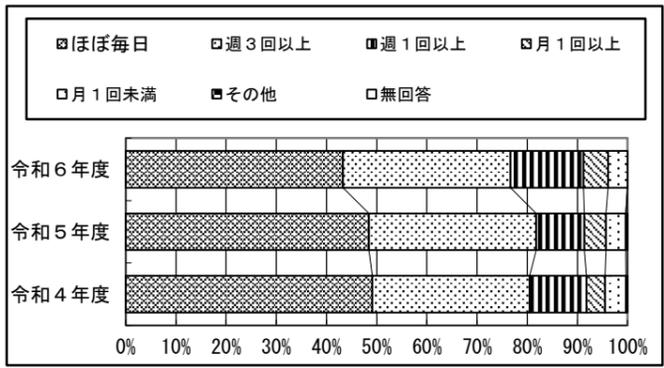
### 中学校



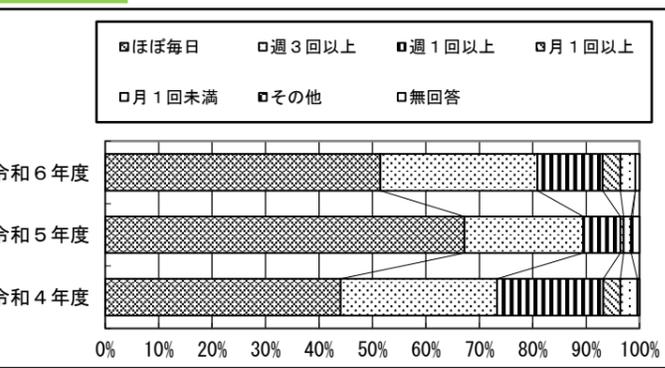
小中ともに、肯定的意見が80%を超えています。学級での話し合い活動を意識的に取り入れている成果であると考えます。今後は、何を話し合わせるのか、意図をもった話し合い活動を実施していきます。

5年生（1、2年生の時）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

### 小学校



### 中学校



貝塚市では、「授業中にICT機器を活用する機会を多くする」という目標を立てています。上記アンケートでは、令和5年度から、令和6年度にかけて、少し肯定的意見が減少しています。単にICTを授業の中で使うだけでなく、効果的なICTの活用を意識しすすめていきます。

## 今後に向けて

全国学力・学習状況調査は、児童生徒の学習状況を把握・分析するための1つの手段です。子どもたちに育成すべき資質・能力をつけることができているのかをこの調査で検証します。今回の分析結果を学校・家庭・教育委員会で共有するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現させるために、以下の内容を中心に今後の授業づくりに取り組んでまいります。

- 表現力や発信力を高めるための土台として、文章の内容を正確に読み取り、意図を的確に理解する力の育成を図っていきます。
- 児童生徒が、自分の考えを整理し、根拠や理由をもって表現、発信する力を高め、表現、発信を積極的に行うために、知識及び技能も個別最適な学びにより高める授業改善を進めていきます。
- 子どもたちの学校での様子や取組み内容が、保護者や地域の方々にもご理解いただけるように積極的に情報発信し、家庭・地域と連携した取組みを推進していきます。
- 家庭学習の仕方や効果的な方法について、子どもたちが自ら考え、計画を立てられるよう、支援方法を研究していきます。
- 人権学習で学んだことを自分ごととして捉え、行動に移す力を育成するとともに、数値で図ることのできない「非認知能力」を育むことで、「自己有用感」「自己肯定感」の向上を土台として、「認知能力」の向上も図っていきます。
- 「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを充実させる為、ICTを活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進について研究していきます。

児童生徒質問紙調査の結果は、子どもたちの生活をみとるための重要なデータとなっています。ここでは、市の取組みと関係があり、成果や課題が見えてきたものを中心に抜粋したものを載せています。

今年度の後半から来年度にかけて今回の全国学力・学習状況調査の分析結果をふまえた課題を共有し、学校と家庭で協力し、子どもたちの健やかな成長を促していきたいと考えます。

グローバル化や技術革新が進む現代、子どもたちが未来を切り開くためには、「実社会で活かせる知識・技能」を身につけ、「未知の課題に対応する力」を育むことがますます重要です。自己肯定感や自己有用感を高めながら、子どもたちの可能性を最大限に引き出す教育を、学校、家庭、地域が一体となって実践し、子どもたち一人ひとりが輝ける未来を共に創り上げていきます。